

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指す学校像)</p>	<p>地域への理解を深めながら、幅広い年齢層と共に学ぶことにより、多様性を認め合い、地域や社会に貢献できる人材を育成する学校 ～自然豊かな学習環境の中で、体験的学習と探究学習を基盤とする6年間を見据えた教育活動を行い、生徒一人一人の能力を最大限に引き出し、主体的に社会に貢献できる有為な人材を育成します。～</p>
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性や可能性を大切に、未来を切り拓く強い信念を持った人材の育成 次代を担うリーダーに求められる社会貢献への強い意志と実践力を持った人材の育成 自然豊かな環境の中で自己研鑽を積み、郷土愛とグローバルな視野を持ち合わせた人材の育成 <p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育システムを活用した基礎学力の定着と先取り学習を行い、6年間を見通したカリキュラムの設定 中高との連携や継続性を活かした、自らの生き方(進路)について考えるキャリア教育の推進 全教室設置のICT機器、一人一台タブレット端末等を駆使し、生徒が主体的・協働的に考え、思考力・判断力・表現力を育成する授業の展開 総合英会話、英語スピーチコンテスト、グローバルデー等、異文化交流体験の機会の積極的な設定 <p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何事にも臆せず行動できるチャレンジ精神旺盛な人 人間関係形成能力が身につけている人 夢や目標を持ち、確かな学力をつけている人

学校運営計画(4月)			
学校運営方針	Update輝翔館～自ら進んで、意欲的に新しいことに取り組み、自分の考えで新しいものを作り出す		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	評価(総合)
<p>昨年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、創立20周年記念式典をはじめとする学校行事を、コロナ禍で学んだことを活かしながら遂行することが出来た。課題は、志願倍率上昇である。そのためには、広報活動に関する教職員の意識改革と抜本的な見直しが必要である。</p>	思考力・判断力・表現力の強化、主体的・対話的で深い学びを実現する	ICT機器を駆使した授業により、生徒同士の学び合いを推奨し、生徒の「表現力やプレゼンテーション能力」を高める	A
	生徒の良い点や進歩の状況を確認して、学習意欲や自己肯定感を高める	「指導と評価を一体化」させた「工夫した授業」、「感動を与える行事」の充実を図る	
	発達段階に応じた効果的な指導方法を実践する	「規範意識」に富み、「チャレンジ精神」にあふれた活気ある生徒を育成する	
	生徒の自主的活動の活性化を図る	「生徒会活動の活性化」「知的チャレンジ精神」「ボランティア活動」等を推進する	
	前期課程生徒と後期課程生徒の交流により自己教育力を高める	異年齢交流により生徒が自ら成長する力を育て、「笑顔で活力ある生活」を送らせる	
本校からの情報発信及び地域社会との連携強化を図り、本校の知名度をさらに上げる	広報内容を刷新した本校の情報発信と、地域行事等への積極的な参加を通じた連携をすすめ、本校のPR拡大を目指す		

自己評価		学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等
総務部	令和7年度入学者選抜志願倍率1.25倍(志願者150名)の達成	生徒が活躍する説明会を企画運営し、本校の魅力アピールする。 小学校、塾に対して定期的な訪問、広報物の送付を行う。 学校説明会を全職員で行い、学校全体でアピールする。	学校説明会に参加していただいた小学生や保護者からは毎回90%以上が満足していただけた。また、生徒が司会をする際に志願することを決めた保護者の声も聞かれた。
	儀式的行事の円滑、丁寧な運営	行事を企画立案し、反省評価を確実に次年度に引き継ぐ。 管理職、関係部署との打ち合わせ、連絡調整を密に行う。 表彰式、受賞報告、生徒発表を定期的に行う。	PTA役員からの評価は「生徒が授業以外で主体的に活動している姿が素晴らしい。」先生方も一生懸命取り組まれている姿を拝見し、生徒も楽しく感じていると思います。」という意見をいただいた。
教務部	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の研究	校外研修等への積極的な参加を促す。 観点別評価に基づいた的確な評価方法を研究する。 ICT機器を活用した授業を推進する。	・授業アンケートの結果、ICT機器の活用について、第1回より第2回の方がより活用しているという結果が得られた。 ・授業アンケートの調査・比較ができるようにデータを整理し、活用して授業改善に活用していただいた。 ・デジタル採点システム利用が30%以上で昨年度よりも増加している。
	基礎・基本を定着させる学習指導と学習意欲の向上	生徒の学習状況を把握し、個に応じた指導を充実させる。 学力向上のための更なる授業・指導法の改善を図る。 定期考査の採点業務と生徒の実態把握作業の効率化を図る。	・説明会等の職員参加人数(19人) ・ポータルサイトを活用した入試情報発信値26回 ・職員全体研修(参加率95%) ・知的チャレンジ活動生徒参加人数(13人) ・人権教育(生徒授業 2回、職員研修参加率100%)
進路部	希望進路実現へ向けての積極的な取り組み	進路行事の内容や実施時期を見直す。 大学入試説明会等に積極的な参加を促す。 ポータルサイトを活用した入試情報発信を推進する。	・職員全体研修(参加率95%) ・知的チャレンジ活動生徒参加人数(13人) ・人権教育(生徒授業 2回、職員研修参加率100%)
	職員研修の確実な運営と生徒のキャリア教育の推進	研修内容と内容の質を向上させる。 生徒の知的チャレンジ活動への参加を推進する。 人権教育を推進する。	・職員全体研修(参加率95%) ・知的チャレンジ活動生徒参加人数(13人) ・人権教育(生徒授業 2回、職員研修参加率100%)
生徒部	望ましい規範意識の育成	挨拶・時間・校則を遵守する心を涵養する。 外部講師を招いての講演会を開催する。 学校行事等を通して生徒集団の自己教育力を育成する。	各講演会後の保護者アンケート及び生徒アンケート(感想文)においては、概ね良好な結果となった。
	生徒の自主的かつ自治的活動の活性化	生徒会執行部や各種委員会活動等の自主的・自治的意識を醸成する。 掲示板や生徒会通信等を利用した活動状況の周知を図る。 生徒会と連携した行事、校則等の継続的に見直す。	学校生活アンケートにおける記述に関しては、特に問題となるものがあった。
第1学年	基本的な生活習慣と規範意識を定着、良好な人間関係の育成を図り、明るく安心した学校生活にする	挨拶・時間・校則などの基本的な礼儀作法やマナーを身につけさせる。 輝翔館の伝統行事を通して、自己の役割を全うさせる。 学年職員、家庭、関係機関が情報共有を密に行い、個々の悩みの解決を迅速に行う。	生徒用学校生活アンケート・行事後の感想文やキャリアパスポートへの記載内容を概ね良好だった。
	授業起立の確立と、家庭学習の習慣の定着を図り、確かな学力を育成する	授業規律を徹底し、落ち着いた学習に取り組める環境を整える。 チャレンジノートを活用し、自主的な家庭学習の充実を図る。 授業・復習のサイクルを意識させ、家庭学習の習慣化を徹底する。	定期考査、校外模試の結果・授業アンケート・三者面談での保護者からの意見は概ね良好だった。
第2学年	基本的な生活・学習習慣の確立と確かな学力の定着を図る	明るい挨拶と規則の遵守を徹底し、1年生の規範となるような行動を促す。 落ち着いた学習に取り組めるよう、授業規律を徹底し、基礎的な知識の定着を図る。 自宅・寮での生活習慣の見直しを促し、学習に集中できる環境を整える。	生徒用学校生活アンケート・定期考査、模試の結果・授業アンケートの結果は概ね良好だった。
	学校行事や校外におけるチャレンジ活動に積極的に参加させ、生徒同士の良好な人間関係の育成を図る	チャレンジ活動に関する情報を幅広く提供し、参加者率70%(校内ボランティア)を目指す。 資格取得に向けて学習の場を設定し、資格の取得に対する意識を高める。 保護者・関係機関との情報共有を密に行い、生徒が相談しやすい環境づくりを行う。	三者面談における記入シート・検定合格率・学年進歩の保護者通信欄は特に問題なかった。
第3学年	前期課程最上学年として、学習面や行動面など後輩の模範となる学校生活態度を確立させる	TPOに即して常識的な行動を体現できる自律性と主体性を養う。 元気でさわやかな挨拶を率先しておこない、学校を明るい雰囲気にする。 リーダーシップとフォロワーシップの育成に努める。	生徒用学校生活アンケート・行事後の感想文やキャリアパスポートへの記載内容は特に問題なかった。
	何事にも挑戦する心を持ち、授業規律の継続と、学習習慣のさらなる定着に努め、確かな基礎学力を育成する	予習・授業・復習の黄金サイクルを意識させ、家庭学習の習慣化を徹底する。 多様な価値観を受け入れる心を育て、良好な人間関係の育成を図る。 生徒の主体的活動を増やし、より多くのPDCAサイクルを経験させる。	生徒用学校生活アンケート・行事後の感想文やキャリアパスポートへの記載内容は概ね良好だった。
第4学年	後期課程最初の学年として、所属の責任を自覚した生活習慣や学習習慣を確立する力の育成を図る	時間厳守・言葉遣いのマナーを常に意識させる。また、環境美化への意識を高めさせる。 学習習慣の確立するため家庭学習時間や提出物の状況の把握し、個別面談を実施する。 HRや学年集会等で学年の課題や社会情勢の話を適宜行い社会性を育成する。	生徒用学校生活アンケート・学習時間調査、模試の結果・講演会等後の生徒振り返り内容は特に問題なかった。
	将来を見据えた進路意識の向上と進路目標の具体化を図る	個人面談を実施し、進路目標を持たせて、文理選択ができるように指導する。 オープンキャンパスやボランティア活動への参加をうながし、具体的な未来像を意識させる。 進路選択の幅を広げるために、多くの資格を主体的に取得できるように取り組ませる。	定期考査、校外模試の結果・地域ボランティア活動・検定合格率は特に問題なかった。
第5学年	基本的な生活習慣と学習習慣を確立し、学力向上と学びに向かう力を育成する	時間厳守・挨拶・身だしなみを常に意識させる。健康管理への意識を高めさせる。 学習時間(目標平均2時間以上)と提出物の状況を把握し、必要に応じて面談を実施する。 外部模試において、学年の25%が偏差値50を超えることを目指す。	学校生活アンケート・学習時間調査・外部模試の結果は大きな問題がなかった。
	生徒理解に努めるとともに社会に貢献できる人材を育成する	二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る。 修学旅行や探究の時間を通じて視野を広げ、社会との関わりを意識し行動させる。 保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。	学校生活アンケート・行事後のアンケート記載内容・三者面談での保護者からの意見は概ね良好だった。
第6学年	基本的な生活習慣の確立および学校行事への積極的な参加を図る	立ち止まった挨拶や、場に応じた言葉遣いの実践を図る。 健康管理への意識を高め、出席率60%を目指す。 体育大会ではリーダーだけでなく、学年全体が意欲的に取り組む。	生徒用学校生活アンケート・三者面談等での保護者からの意見はおおむね良好だった。
	進路実現のための学習習慣の確立させる	平日180分以上、休日360分以上の学習時間を達成する。 学校における隙間時間を学習へ有効活用させる。 スマートフォン等に関する利用ルールを設定し、順守させる。	学習時間調査・模擬試験等の結果・三者面談等での保護者からの意見は概ね良好だった。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数の増加をめざすべく、広報活動の更なる充実、地域・関係機関との連携強化を、生徒・保護者と共に「フナチーム輝翔館」で丸となって取り組む。 ・先取り学習(仮称「輝翔館アクセル」)を加速化し、工夫した授業を充実するとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導体制を整備する。 ・中等教育学校の特色を生かし、各学年の到達目標や指導方法に工夫を加え、規範意識に富み、チャレンジ精神にあふれた活気ある生徒を育成する。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
素晴らしい卒業生の姿を見て、この素晴らしい姿が周知されるよう、委員としても支援・協力したい。	